

砂防施設が効果を発揮した事例 (鹿児島県垂水市新御堂)

たるみずしんみどう

(鹿児島県垂水市新御堂)

H17.9 流木と土砂を捕足



その後、早急に流木や土砂を除去した



時期出水に備えていたため、
今年の大雨でも土砂や流木を捕捉できた



井川の砂防堰堤は、平成17年9月の台風14号により発生した土石流を食い止め、砂防施設の効果を発揮した。

その後砂防堰堤に堆積した土砂や流木を早急に除去し、時期出水に備えていたことにより、平成18年7月5～6日の梅雨豪雨により発生した土石流も食い止め、再び下流保全対象を守ることが出来た。

砂防施設が効果を発揮した事例 きもつきぐん みなみおおすみちょう せわき (鹿児島県肝属郡南大隅町瀬脇)

平成18年7月5～6日の梅雨前線に伴う豪雨により、瀬脇谷1において山腹崩壊及び土石流が発生した。

砂防堰堤が施設されていたことにより、土石流や流木を捕捉し下流への土砂流出等を防ぎ、保全対象を守ることが出来た。



砂防・治山施設が一体となって効果を発揮した事例（鹿児島県阿久根市横ヶ倉）
あくね よこかぐら

平成18年7月18日～23日にかけて梅雨前線により降り続いた豪雨のため、佐敷川で山腹崩壊や土石流が発生した。

しかし、既設砂防堰堤や治山堰堤等が施設されていたことにより、上流からの土砂及び流木を捕捉し、下流保全対象への土砂流出を低減することができた。

